

Newsletterは、東京YWCAの事業活動を皆様にお伝えするための広報紙です。毎回特集で取り上げる事業を中心に、東京YWCAの今をお届けします。

特集

女性の権利

新型コロナウイルス感染が拡大する中で、ドメスティック・バイオレンス(以下DV)が増えています。今回の特集では、東京YWCAで2009年より実施している、DV被害者支援『支援者エンパワメントプログラム』の現在の動きについてお伝えします。

“DV被害者の支援者を支える”

2020年度のDV相談件数は、19万30件(内DV相談プラスは52,697件。内閣府男女共同参画局調べ)でした。これは前年度比約1.6倍にあたります。相談件数が増加した理由は、感染拡大防止における外出自粛によって埋もれていたDV被害が表面化したことにあります。内閣府は2020年4月、災害時にDVが増えるという過去の経験則から既存の「DV相談ナビ」を補完する形で、新たに24時間対応の相談窓口「DV相談プラス」を開設しました。このことも相談の増加に結びついた要因と考えられます。

忘れてはならない 支援者の存在

DV被害者(以下DVサバイバー)の支援

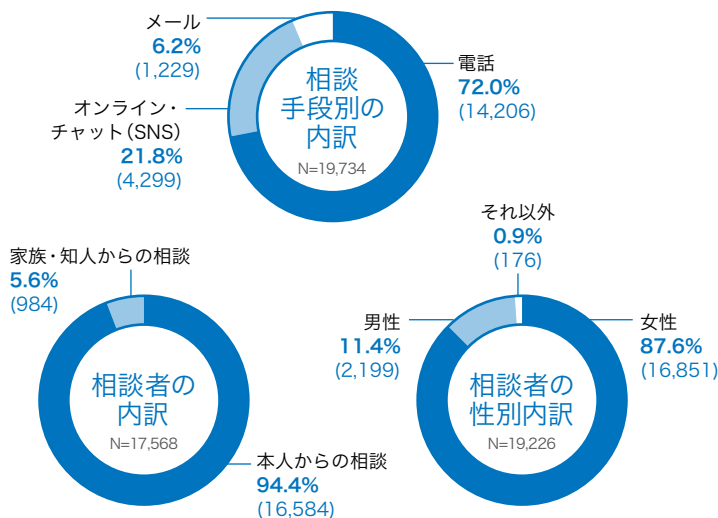
にあたる支援者は、一般に知られる機会の少ない職業です。優れた傾聴力や多角的な視点が必要であり、DVサバイバーの尊厳の回復や安心安全な生活を考える伴走者として重責を担っています。しかし雇用形態は非正規であることが多く、待遇は決して恵まれていません。体系的な研修を受ける機会も少なく、職場によっては相談相手が不在なことから、孤立や問題の抱え込みを招いています。そのため支援者は疲弊しバーンアウト、さらにはDVサバイバーに対して二次加害という事例も起きています。これらの実態を踏まえ、東京YWCAでは2009年よりDV被害者支援『支援者エンパワメントプログラム』を開始しました。

東京YWCAは なぜ支援者を支援するのか

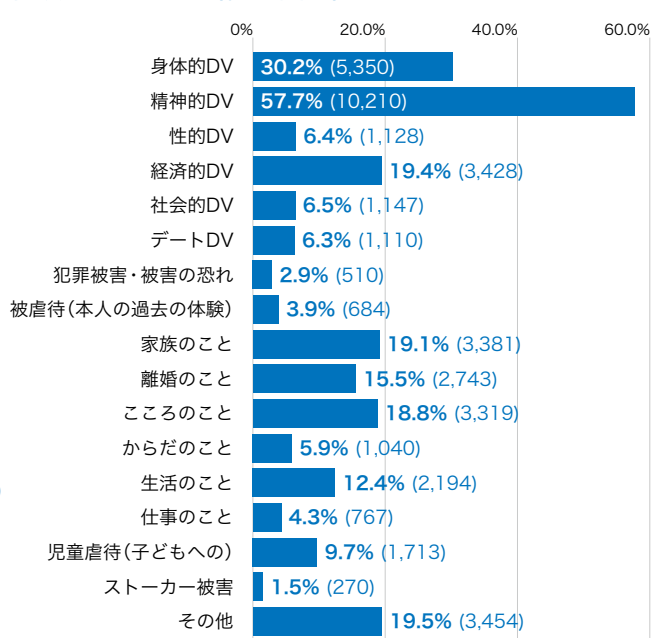
良い支援を提供するには、支援者がDVについて正しい知識を持ち心身ともに健康であることが大切だと考えています。学ぶ場としての『トレーニング』、支援者が繋がる場としての『支援者サロン』を主軸に、支援者のバーンアウトを防ぎ、孤立を避け、支援者のエンパワメントを目指します。参加する支援者の多くが自費で参加していることから、皆様からのご寄付や助成金で参加費の一部を補い、費用設定を抑えています。今後とも皆様からのご支援をよろしくお願いたします。

DV相談プラスにおける利用者と相談内容(抜粋)

DV相談プラスは内閣府男女共同参画局が新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛、休業等が行われる中、DVの増加・深刻化の懸念を踏まえて2020年4月20日から開始された電話、SNS、メールによる24時間相談と同行支援、保護、緊急時宿泊提供を行うものです。



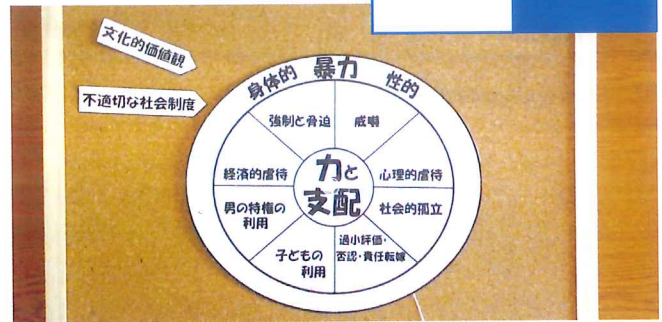
相談テーマの内訳(複数回答)



支援者トレーニングを オンラインで実施

大切にしたいのは サバイバーの意志

「支援の方向を決めるのはDVサバイバー本人の思いや計画であるべき」という理念に基づいて支援者トレーニングを行っています。DVが発生する社会的構造等のレクチャーやDVサバイバーの気持ちを疑似体験するワークショップ等を通しDVやDVサバイバーの理解を深め、その理解を基盤とした支援を学びます。参加者からは「日々の支援の中で抛り所となっている」という声もあがっています。新型コロナウイルスの感染拡大前、トレーニングは対面にて2日間(計14時間)で行われていました。感染リスクのないオンラインでも実施できるよう開発し、今年2月にはオンラインで3日間(計7.5時間)実施しました。トレーニング終了



参加者が視聴する事前学習動画「力と支配」の一部から

後の参加者アンケートや効果測定により対面と同じ効果が得られることも確認できました。またオンラインでの開催は、交通費や時間の節約になり、忙しい中でも参加しやすかったという声もあり、新型コロナ収束後もオンラインでのトレーニングを続け、対面と2本柱で支援者を支えていきたいと考えています。

※DV被害を受けている、もしくは受けたことがある人を、試練の中で生き続けている力強い人という意味で「サバイバー」と呼びます。

※本トレーニングはジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループの助成を受けて実施しています。

グループワークの学びで自分が変わる いつか支援者仲間とリアルで会いたい

DV防止ながさき / 予防教育担当 / 小袋海さん

私は中高生へのデートDV予防教育や、居場所づくりを行っています。子どもたちと話す中で、デートDVのような状況にある人や、人間関係で悩みを抱える人は多いと感じます。どうしたら本人を否定せず一緒に考えていけるか悩む中、以前受講した先輩の後押しもあり、「DVサバイバーと協働するための支援者トレーニング」をオンラインで受講しました。DVの基本を学び、サバイバー主導の支援についてグループワークを重ねながら学びを深めたことで、現場でも「あなたはほしい?どう思う?」という声掛けをより大切にできるようになりました。また、多くの仲間と出会い、同じように悩みながら支援していると知り、私も共に頑張ろうと思えました。

「基本」に立ち返れる場所 スタッフ皆で同じ土台を

駆け込みシェルターとかち / 相談員 / 鳴海恵さん

民間シェルターでDV被害者支援に携わっています。2019年に対面でのトレーニングを受講しました。虚勢を張らずに「できない、わからない」が言え、自分に問い、悩みを共有し知恵を出し合う、まさに私が求める研修でした。バリアを体験するワークでは支援もお金も使い果たし、家に帰るしかなくなり呆然。様々なワークでは自分の“思い込み”にどぎっ。これほど自らを顧みる研修は無かったと思います。今年2月には、このトレーニングを仲間と分かち合いたい、施設のスタッフと共にオンラインでのトレーニングに参加しました。それぞれがトレーニングを通し何かを感じ取ってもらえたと思っています。次回はぜひ仲間と一緒に、対面でも体験したいです。



真剣に、でも和やかに(2019年撮影)

ニーズに応えるため トレーナー養成も課題

トレーニングの修了生は延べ約200人になりました。この間にDVの社会的認知度は上がり、感染症の拡大が被害者を顕在化させたことで支援のニーズが高まって

います。支援者を支えるトレーニングはますます必要とされています。トレーニングを担うトレーナーの養成が追い付いていないのが現状ですが、一朝一夕にはいきません。先輩トレーナーのスキルアップを行うと同時に、若いトレーナーの育成に取り組むことが急務となっています。

ご関心のある方はどうぞお問い合わせください 研修会の日程はWebサイトをご覧ください

平和と人権事業部
女性と少女の人権課

☎ 03-3293-5434 ✉ josei@tokyo.ywca.or.jp
🏠 <https://www.tokyo.ywca.or.jp/woman/empowerment/>





Rise Up! School Visits展開中!

私たちRUSVユースは、地域の中高生と出会いたい

Rise Up! School Visits (RUSV) は、国連女性の地位委員会に参加した20代中心の若い女性たち(RUSVユース)がファシリテーターとなって、ワークショップ形式で「人権教育としての性教育」を提供するプログラムです。5月には、全国のRUSVユースが交流会を開催。6月には「性的同意年齢」をテーマにオンライン勉強会を2回に分けて開催しました。身近なところから「同意」について考え、対等なパートナーシップと性的同意を学びました。7月に、全国のRUSVの紹介と「ルッキズム」、「生理の貧困」を取り上げたミニワークショップの動画を作成。関西地区で行なわれた日本YWCAの加盟中高YWCAカンファレンスに向けて配信しました。8月上旬は関東地区カンファレンスで、「断る勇氣～同意って何～」をテーマに1時間

るから「同意」について考え、対等なパートナーシップと性的同意を学びました。7月に、全国のRUSVの紹介と「ルッキズム」、「生理の貧困」を取り上げたミニワークショップの動画を作成。関西地区で行なわれた日本YWCAの加盟中高YWCAカンファレンスに向けて配信しました。8月上旬は関東地区カンファレンスで、「断る勇氣～同意って何～」をテーマに1時間



中高YWCA関東地区カンファレンスに参加

のワークショップを提供し、中高生・先生方80人と率直な意見を交わすことができました。今後も学びを深めつつ歩みを続けていきます。

野尻キャンプ90周年

1931→2021 ～野尻からひらく～レガシィを未来へとつなぐ

1931年、日本女性の心身の育成とリーダーシップ養成のために第1回野尻キャンプが行われ、多くの女子、近年は老若男女を問わず多様な人々がキャンプを体験してきました。90周年記念事業寄付で、水道管の入替、シャワー室改修、手洗い場を新設できました。戦時中の指令による閉鎖以来、自ら全面休止にしたのは2020年が初めてのことで。来年こそ、大勢の子どもたちを迎えたいと準備中です。



90年変わらぬ風景。メインホールポーチから野尻湖を臨む

「沖縄のいまを聞く」

自然破壊、命を脅かす軍事基地、平和への決意、さらに強く

6月にSNSで沖縄への想いを込めたメッセージを募り、7/16(金)にはオンラインで沖縄の現状を聞く会を開催しました。東京、大阪、名古屋、熊本などから約30人が参加。現地では活動している沖縄YWCAのメンバーへ質問をしながら、抗議活動や、自然環境の悪化状況、沖縄戦から続く世代を超えた苦しみについて聞きました。平和への決意がさらに強くされました。



インスタ始めました



「留学生の母親」運動奨学金

日本で学ぶ留学生に特別奨学金を支給

2020年度は一人5万円を9か国20人に支給できました。前号の特集でご報告した後、多くのご寄付をいただき心より感謝申し上げます。今年度も支給を決定しております。

● 東日本大震災被災者支援事業 震災から10年 バザー終了

第10回東日本大震災支援バザーは、新型コロナウイルス感染拡大の収束が見込めず中止しました。第1回から10年は続ける目標でしたが、開催目的の福島の子どもたちをキャンプに招待するための資金は、これまでのバザー収益と、個人、企業、団体からのご寄付で、震災から20

年、震災の年に生まれた子どもたちが成人するまで続ける見通しがたちました。東日本大震災支援バザーは、第9回をもって終了を決めました。福島の子どもたちのキャンプは、感染状況が落ち着き次第再開の予定です。今後とも、ご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。



いわきの子どもたちと東京のお友だち

